

講演 第1部 糖尿病内科医からのメッセージ
— 医科歯科連携を目指して —



濟生会千里病院
糖尿病内科 部長 鈴木 正昭

現在日本の糖尿病患者数が増加している。戦後数十年で30倍以上に増えているが、最近20年は毎年の増加度が上昇している。現在日本人の糖尿病患者は1000万人を越えていると予想されている。原因は戦後とくに昭和30年代からの食

生活の洋風化とモータリゼーションによる運動量の低下およびその結果による肥満の増加といえる。これらはすべてインスリン作用の低下をもたらし、結果2型糖尿病の増加をもたらした。もちろんこれは平均寿命が延びて糖尿病のような生活習慣病になれるまで長生きできるようになったことが原因と考えられる。以前のように糖尿病による高血糖で死亡することはまずなくなったが、糖尿病の合併症で亡くなるかたは増加した。1998年以降透析導入の原因の第一位である。現在失明原因の第二位である。糖尿病神経障害の症状で苦しむ患者は多い。心筋梗塞や脳梗塞は非糖尿病者の2-3倍多く発症するといわれている。歯周病は糖尿病の重大な合併症である。日本糖尿病学会総会においても、歯周病は合併症のシンポジウムのテーマになっている。糖尿病患者では歯周病が重症化する。その主因は、生体の感染防御能としてのマクロファージ機能や好中球の細菌食能が高血糖や虚血によって低下し、歯周病菌の増殖を制御できないことにあると考えられている。糖尿病の血糖コントロール不良が歯周病を増悪させる。特に高齢者、喫煙者、肥満者では罹患率が高い。また歯周病が重症であるほど血糖コントロールは不良となるといわれている。歯周病治療によって歯周組織の慢性炎症が改善すると、糖尿病で低下していたインスリン作用が改善し、血糖コントロールが改善することが報告されている。糖尿病は歯科治療総合医療管理料の加算が可能である。近年の糖尿病診療の話題としては、1997年に診断基準にグリコヘモグロビンA1c、HbA1cが導入されたこと。さらに今年HbA1cの表記が従来のJDS値からNGSP値に変更になったことがあげられる。急に変わったため患者さんに対する説明に時間を要することがある。また糖尿病の新薬としてDPP-4阻害薬が2年前より新規に発売され、現在5剤目まで出てきている。さらに増える予定である。また来年再び全く新しいタイプの経口糖尿病治療薬が発売される予定である。このように糖尿病の薬物治療が年々複雑になっているが治療の選択肢もまた増えてきており、糖尿病治療は新時代に入ってきていると言える。

第1回 千里病院医科歯科連携
カンファレンス 2012年12月8日



講演 第2部 口腔感染症の病診・医科歯科連携治療
～challenging/surprising 症例を振り返る～



濟生会千里病院
歯科口腔外科 医長 今井 智章

歯科の2大疾患であるう蝕と歯周疾患はいずれも細菌感染症であり、口腔領域は感染症との闘い(=炎症)の場といえます。これらの続発症ともいえる菌性感染症が、重篤化あるいは初期治療が奏功しない場合には、歯科医院から病院歯科口腔外科へと治療が委ねられることが多いと思います。

今回は、菌性感染症を主体とした口腔顎顔面領域の感染症について、総論的な内容のあとに、地域の先生方より紹介下さった症例を中心に振り返り、その多彩な臨床像から、病診連携・医科歯科連携のあり方を考えたいと思います。

【プロフィール】

略歴	1999年	大阪大学歯学部卒業
	2003年	大阪大学大学院歯学研究科博士課程修了
	同年	市立伊丹病院・歯科口腔外科医員
	2006年	濟生会千里病院・歯科口腔外科医員
	2009年	同医長
	2010年	大阪大学歯学部附属病院・第2口腔外科医員
	2011年	濟生会千里病院・歯科口腔外科医長(診療科責任者)
認定医	日本口腔外科学会 専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医(歯科口腔外科)	

■千里・糖尿病セミナー

開催日：平成25年3月14日(木) 午後6時00分～7時15分
場所：千里阪急ホテル 2F東館 葵の間
講演 「肥満2型糖尿病診療のトピックス」
講師 大阪大学医学系研究科 代謝血管学寄付講座
寄付講座教授 船橋 徹 先生

■第45回 登録医会総会並びに学術講演会

開催日：平成25年3月16日(土) 午後3時30分～6時30分
場所：千里ライフサイエンスセンター 5Fサイエンスホール
特別講師 大阪府立母子保健総合医療センター
泌尿器科主任部長 島田憲次 先生



大阪府濟生会千里病院
地域支援センター

第37号
2013.01

地域医療連絡室だより

■編集/発行

濟生会千里病院 地域支援センター
地域医療連絡室

〒565-0862 吹田市津雲台1-1-6

TEL 0120-115-031 (登録医専用)

FAX 06-6871-5915



濟生会千里病院 登録医会 会長
千里医師連合会 会長

黒田 秀也

登録医を代表してご挨拶させていただきます。街開き50周年を迎えた千里ニュータウンでは、65歳以上の高齢者が30%以上となっています。医療は病院の中だけでは完結せず、地域全体で患者さんを診る時代になってきました。高度な急性期医療を担う濟生会千里病院を中心に、療養病床や介護施設、開業医や在宅医等が、患者さんに切れ目のない医療を提供することが求められています。

急性期病院で治療の終わった患者さんの行き先をどうするか、というのは濟生会千里病院にとっても大変大きな問題です。先日、この難しい問題の解決に奔走しておられるソーシャルワーカーの方の話をお聴きする機会がありました。医療スタッフだけではなく、職員の方々の総合力が、この病院のレベルを支えていることがよく分かりました。

今年は多数の歯科の先生方が新たに登録医となられた結果、登録医会は600名を越える大所帯になりました。千里ニュータウンの医療の中核となる濟生会千里病院に、これからも大いに期待したいと思います。無理難題をお願いすることもあるかと思いますが、よろしく申し上げます。



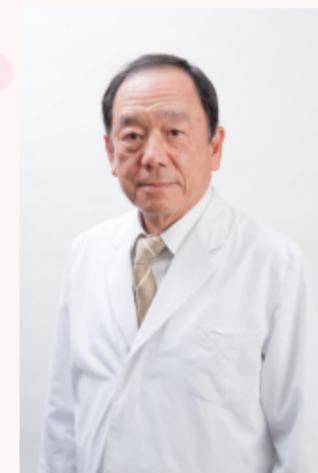
新 地域支援センター長

庄司 恭之

あけましておめでとうございます。平成25年1月付で地域支援センター長を拝命いたしました庄司恭之(しょうじやすゆき)です。私は昭和58年に大阪市立大学卒業後60年-63年まで新千里病院にて勤務医をはじめました。愛着のあるこの地域、千里病院に平成17年に再就職ができ大変喜んでおりました。その後、整形外科主任部長として大腿骨頸部骨折の地域連携パス、骨粗鬆症検診(吹田市)、リウマチ診療の地域連携パスなどの構築、運用により病診連携、病々連携について実践してきました。

今回、さらに地域の病・医院の皆様方と関連を結べる役職を与えられ、うれしさの反面責任に身が引き締まる思いです。前浦先生が築かれた連携の絆をより強固な物にするべく努力する所存です、何とぞよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

あけまして
おめでとうございます



濟生会千里病院
院長 林 亨



前 地域支援センター長

前浦 義市

あけましておめでとうございます。暮れの総選挙も終わり、景気復興に向けた改革が行なわれることになりました。社会での格差是正や原発問題よりは今まさにある生活改善が民意であったわけですが、医療や福祉についてはどのようになるのか懸念も残ります。さてこのたび、私は長く勤めました地域支援センター長を庄司先生に引き継いでいただくことになりました。当院の地域センターは他の病院に先駆けて、皆様方からの紹介を受ける地域医療連絡室、病床管理する入院管理室、退院支援を行なう福祉相談、在宅支援室が機能的に連動するように設立されました。皆様のご理解、ご支援のもと、着実に歩を進めることができ、地域医療の中核としての地域支援型病院、がん診療拠点病院などとなることができました。これも諸医療機関の方々のご支援、ご協力によるものと深く感謝いたしております。当院も濟生会となり本年度10年目であり、いろいろな意味で成熟期を迎えます。これからも病院の発展のため皆様方のますますのご助力をよろしく申し上げます。

■千里地区 薬・薬連携研修会

開催日：平成25年1月19日(土) 午後2時30分～5時00分
場所：濟生会千里病院 東館3階 講堂
講演1.「抗EGFR抗体製剤に伴う皮膚障害への当院における対策」
講演2.「創傷管理について」
講演3.「創傷ケアの実践」

■第28回 整形臨床カンファレンス

開催日：平成25年2月14日(木) 午後7時30分～
場所：千里阪急ホテル 西3F 梅桃の間

